

## <令和4年度2学期 終業式>

皆さん、おはようございます。2学期の終業式はTeamsを使ったオンライン終業式となります。感染者が増加傾向にある新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ感染防止のためです。教室での皆さんの様子を思い浮かべながらお話しします。

今日は、今年の紅白歌合戦に初出場するダンス&ボーカルグループ、「BE:FIRST」と、彼らをプロデュースした「SKY-HI」さんにまつわる話をします。恥ずかしながら、私は最近活躍しているミュージシャンの名前や顔がよく分かりません。ではそんな私がなぜ彼らにまつわる話ができるのか？これから話すことは、鷺高図書館で毎週読んでいる『AERA』という雑誌に掲載されていた記事、私の心をぐっつつかんだ記事のお話しです。

「認め合うからチームは伸びる」というタイトルにまず心惹かれました。記事は、「BE:FIRST」の全国ツアー公演のリハーサル前のミーティングの様子から始まります。ともすると本番前のピリピリした空気が支配するミーティングの場において、「BE:FIRST」の7人のメンバー一人一人が、リラックスした雰囲気の中、思っていることをユーモアを交えて語り合う光景。プロデューサーの「SKY-HI」さんは、そんなメンバーの意見を肯定的に受け入れ、自分の言いたいことも温かい眼差しでしっかり伝える様子。チームをまとめていくそのやり方が、実に自然で、カッコイイと思いました。

「SKY-HI」さんが記事の中で語っていたことで、印象に残った言葉を紹介します。  
～人生を楽しく終えようと思ったら、よい人間であったほうが圧倒的によいというのが持論です。周囲によい人だと認識されたほうが、いい仕事にも巡り合えるし、困ったときには力を貸してくれる人と出会いやすい。逆もまた然りで、僕はこれまでその好例も悪例もたくさん見てきました。

だから、一番大切にしているのは、「人にやさしくあれ」ということです。厳しすぎるとミスはマイナスにしかならない。けれども、やさしさがあれば、ミスはコミュニケーションの潤滑油になり、プラスに転じることさえある。そして、助け合っているうちに、全体の中の自身の役割も客観視できたりします。

固定観念にとらわれず、自分の役割を見いだせたら、きっとネジにもビスにも尊い価値があることに気づく。ならば、すべてを輝かせてみなさいよ、ということです。可能性に気づいて、皆が輝けるチームを築いていったら、ひとりではできない大きなことがあることにも気づくでしょう。～

紹介した言葉はごく一部です。記事全体を読んで、私は、「SKY-HI」さんや「BE:FIRST」のメンバーが実践している「人にやさしくあれ」は、生半可な、甘ったるい「やさしさ」ではないと思いました。自分とは異なる考え方の他者を理解し、異質なものを肯定し受け入れる度量がある。自分や気の合う仲間だけの幸せではなく、多様な考え・個性をもつ人をも含めたチーム全体の幸せを願って行動できる人なのだ。また、彼らのこのような素晴らしい資質は、エンパシー(empathy) …他者の感情や経験などを理解する能力…に長けているのだなとも思いました。

※「エンパシー」については、昨年の2学期終業式で、ブレイディみかこさんの『他者の靴を履く』という本を紹介しながらお話ししました。鷺高図書館にあるのでぜひ読んでみてください。

2022年もあとわずかで幕を閉じようとしています。今年も日本や世界でさまざまなことが起こりました。今、我々に求められていることの一つは、皆で「認めあうチーム」の輪を広げていくことなのではと考えます。家族、クラス、部活動など、身近にある集団から実践できます。

今年の冬休みも、曜日の関係で例年より少し長い休みです。明日から3学期が始まるまで17日の休みがあります。これまでの自分を見つめ、新たな自分を決意する期間にしてください。ご家族や友人と話をする機会を大切にしてください。多様な考えをもつ他者を尊重してください。そして、そんな自分を大切にしてください。1月10日始業式に、元気な姿の皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。それでは良いお年をお迎えください。

以上で2学期終業式の私の話を終わります。